



おぐら倉

校訓  
自主  
創造  
協力



令和4年6月16日(木)発行  
校長 栗原博巳  
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号  
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>  
豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～  
<目指す生徒像>  
① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒  
② 健康で明るく、思いやりのある生徒  
③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒  
◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

# 1年生国語科研究授業がありました。

6月10日(金)に1年2組で国語の研究授業が行われました。これは、本校が昨年度指定され、本年度も学校の取組として継続している「授業づくり共同研究」の一環としての授業です。

この「授業づくり研究」は、子どもたちにとって「わかる授業づくり」を目指し、その成果を尾倉中学校で共有するというものです。つまり、子どもたちが「分かった」「できた」と実感できる授業を目指していくものです。私たち教師が、自分の授業を振り返りながら、よりよい授業を目指し、子どもたちに還元していきたいと考えています。

本時の主眼は、【修正の観点】を参考にしながら実際にスピーチを行い、原稿内容や発表の仕方についてグループで工夫点を出し合う活動を通して、よりよいスピーチの在り方や伝わる表現について理解できるようにするものです。

導入では、発表対象者と発表の目的を再度確認し、本時のねらいを確認させます。展開では、班ごとに原稿を修正し、よりよい伝え方を共有しながら、具体的な工夫点や語感についての理解を深めさせていきたいと考えました。生徒は、「よりよいスピーチにするためには、対象者に合わせた文章や、表現方法を工夫する必要がある」ことを学びました。



国語科	学年・学級	第1学年2組	単元	話の構成を工夫しよう (3時間/4時間)	日付	令和4年6月10日	場所	1年2組教室	授業者	長野 葉月
-----	-------	--------	----	----------------------	----	-----------	----	--------	-----	-------

**主眼**  
【修正の観点】を参考にしながら実際にスピーチを行い、原稿内容や発表の仕方についてグループで工夫点を出し合う活動を通して、よりよいスピーチの在り方や伝わる表現について理解できるようにする。

**めあて**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**まとめ**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**主眼**  
【修正の観点】を参考にしながら実際にスピーチを行い、原稿内容や発表の仕方についてグループで工夫点を出し合う活動を通して、よりよいスピーチの在り方や伝わる表現について理解できるようにする。

**めあて**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**まとめ**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**主眼**  
【修正の観点】を参考にしながら実際にスピーチを行い、原稿内容や発表の仕方についてグループで工夫点を出し合う活動を通して、よりよいスピーチの在り方や伝わる表現について理解できるようにする。

**めあて**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**まとめ**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**主眼**  
【修正の観点】を参考にしながら実際にスピーチを行い、原稿内容や発表の仕方についてグループで工夫点を出し合う活動を通して、よりよいスピーチの在り方や伝わる表現について理解できるようにする。

**めあて**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**まとめ**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**主眼**  
【修正の観点】を参考にしながら実際にスピーチを行い、原稿内容や発表の仕方についてグループで工夫点を出し合う活動を通して、よりよいスピーチの在り方や伝わる表現について理解できるようにする。

**めあて**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

**まとめ**  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

話の構成を工夫しよう

めあて  
よりよいスピーチにするための工夫点を出し合い、発表会につなげよう。

【修正の観点】  
○文章の内容  
・もっと詳しく説明できる部分はないか。  
・小学生が知らない単語が出てきてはいないか。  
・言葉遣いはおかしくないか。  
・問いかけはあるか。  
・大切なことは反復するなどの工夫があるか。  
・予想される質問に対しての答えが用意できているか。  
・中学校の良さが入っているか。  
・文章量が少なすぎたり、多すぎたりしていないか。

○表現方法  
・教室中に伝わるくらいの声のボリュームか。  
・話す速さは適切か。  
・顔はよかっているか。  
・大切な部分はゆくり、はきはきと言うなどの工夫があるか。  
・聞いている人の反応を見ているか。  
・必要があれば言葉を言い換えたり、付け加えたりするなどの工夫があるか。

まとめ  
よりよいスピーチにするためには…  
対象者に合わせた文章や表現方法を工夫する必要がある。

【達成目標に向けた本時の手立て(留意点)を※印で記載】

本時の流れ

① 前時の活動を振り返り、学習プリントを確認する。  
○ スピーチ原稿を確認しながら、本時の流れをイメージしている。

② 本時のめあてを確認する。  
○ 本時が、次時に行われるスピーチ発表会の準備時間であることを理解している。  
○ 付箋の活用法を理解している。

③ 班で【修正の観点】を参考に工夫点を出し合い、修正していく。

【修正の観点】を参考にしながら、よりよい原稿にするための工夫や、表現方法を付箋に書き、班で共有しようとしている。

④ 本時の学習についてまとめ、振り返る。  
○ 文章は推敲することでよりよい内容になることを実感している。

原稿の中で修正できそうな部分はあるか？

よりよいスピーチ原稿にするためのアイデアを出そう。

【修正の観点】を参考にしながら、文章を推敲してみよう。

よりよいスピーチ原稿にするために考えたいことは？

主な学習活動 【準備(評価方法)】

主な発問